

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：34319

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520781

研究課題名(和文)「長命茂兵衛家旧蔵文書」の調査・分析に基づく年預の活動実態に関する研究

研究課題名(英文) Study on activity actual situation of the Nenyo based on an investigation, the analysis of the Chomei Moheis document

研究代表者

長田 あかね (NAGATA, Akane)

京都造形芸術大学・芸術学部・非常勤講師

研究者番号：10574816

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：長命茂兵衛家文書は、中世から近世にかけて南都両神事能(春日若宮祭能と興福寺新能)で活動した年預に関する、ほぼ唯一のまとまった文書群であり、日本芸能史・能楽史の研究を中心に、きわめて重要な資料と位置づけることができる。研究期間を通して、同文書について、書誌データの採取、目録・釈文・解題・画像データの作成、参考文献の収集他の作業を達成し、同文書の分析および年預の活動実態に関する研究も行った。その結果、これまで事実上未公開であった同文書の全面公開への道筋をつけ、同文書を活用した今後の研究発展に貢献しうる成果を得るに至った。

研究成果の概要(英文)：The Chomei Moheis document is approximately only large amount of document group about the Nenyo that was active in both Nantos noh of the Shinto ceremony (Kasuga Wakamiya festival noh and Kofuku-ji Temple bonfire noh) from the Middle Ages to the early modern times, and it can place as an extremely important document mainly on a study of the history of Japan entertainment and a study of the history of noh. Through a study period, I achieved the collection of bibliography data, making of a list, reprinting, explanatory notes, the image data, the work of collection of references, etc. about the document. And I analyzed the document, I studied about the activity actual situation of the Nenyo. As a result, I opened the way to the full-scale exhibition of the unscreened document until now, and came to get the result that could contribute to the future study development that utilized the document.

研究分野：人文学

キーワード：日本芸能史 民俗芸能史 日本宗教史 能楽史 南山城 年預 興福寺新能 春日若宮祭能

## 1. 研究開始当初の背景

「長命茂兵衛家旧蔵文書(以下、長命茂兵衛家文書)」は、長命茂兵衛家と縁戚関係にあった京都府木津川市の安田家に所蔵されている総数153点の文書群のうち、長命茂兵衛家に直接関係する102点の文書の名称である。1985年に山路興造氏・植木行宣氏・青盛透氏による調査が行われたが、全面公開にはいたらず、これまで、ごく一部の研究者が数点の文書を論考の参考とする程度にしか活用されてこなかった。

長命茂兵衛家は、近世の南都両神事能(春日若宮祭能と興福寺薪能)において「翁(式三番)」のみを専門に演じた年預と呼ばれる特殊な家系の一つである。年預家が残した資料は、「長命茂兵衛家文書」以外には同じ年預家の幸王金十郎家に伝わった「幸王家文書」19点しか伝わっておらず、「長命茂兵衛家文書」は年預の実態解明を進める上で、質・量ともにきわめて貴重な文書群と言える。年預に関する先行研究は、「幸王家文書」以外に参照する年預家の資料がなかったため、まだ不十分な点も多く、年預の実態解明の研究は発展途上の段階にある。よって、年預に関する研究を進める上で、近年利用が可能となった「長命茂兵衛家文書」の徹底した調査・分析作業に基づく公開は必要不可欠なものと考え、本研究に取り組むにいたった。

## 2. 研究の目的

近世の南都両神事能(春日若宮祭能と興福寺薪能)において「翁(式三番)」を担当し重要な役割を果たしていた年預であるが、年預家に伝来した資料は非常に乏しく、総数153点の「長命茂兵衛家文書」とその関連文書群はきわめて貴重な資料だと言える。同文書は諸事情により事実上未公開であつたため、ごく一部の研究者を除いて、これまでその全貌が知られていなかった。本研究では初めて同文書群全体の徹底した調査・分析を行い、そこから得た情報を公開するとともに、それらの情報をもとに、これまで十分に検証されてこなかった年預の活動実態を、その歴史の変遷も踏まえ、できる限り具体的に解明することを目的としている。

また、年預の前身は中世まで遡ると考えられていることから、本研究の進展が、中世の南都両神事能のあり方やそこに集った猿楽座の研究にも結びつくことは必至であり、近世以前の奈良における寺社信仰の展開や能楽組織の変遷を考察する上でも、年預の研究は必要不可欠なテーマとなってくる。一方で、長命茂兵衛家は地域に密着した芸能活動を展開しており、長命茂兵衛家が居住した南山城地方の地方史の解明にも、本研究の果たす役割は大きいとみられる。しかるに、本研究活動は、中近世の能楽史・民俗芸能史・祭礼史・寺院史・宗教史・地方史など幅広い分野の研究にも活用できるよう、広い視野をもって進めるべきだと考える。

## 3. 研究の方法

「長命茂兵衛家文書」は、諸々の事情により、事実上、長年閲覧不可能な状態が続いていたが、木津川市の郷土史家である故小林凱之氏(研究協力者)の尽力により、平成21年に京都府立山城郷土資料館(ふるさとミュージアム山城)に仮預かりの状態になった。本研究では、山城郷土資料館の協力のもと、以下の通り、同文書の調査・研究を実施する運びとなった。

### (1) 「長命茂兵衛家文書」の基礎的データの採取・作成

#### 書誌データの採取

「長命茂兵衛家文書」を含む文書群全153点について、文書名・法量(寸法)・頁数(数量)・形状・成立年代・保存状況などの書誌データを、文書1点ごとに採取した。

#### 画像データの作成

「長命茂兵衛家文書」を含む文書群全153点について、デジタルカメラによる撮影と画像の加工処理を行い、公開用画像データを作成した。

#### 目録の作成

「長命茂兵衛家文書」を含む文書群全153点について、番号・成立年代・文書名・形状・頁数などを記載した目録を作成した。

#### 釈文(翻刻)の作成

「長命茂兵衛家文書」102点について、文書1点ごとの釈文(翻刻)を作成した。

#### 解題の作成

「長命茂兵衛家文書」102点と同文書の関係資料とみられる「三番叟」1面について、文書1点ごとの解題を作成した。

### (2) 「三番叟」の修復

「長命茂兵衛家文書」の関係資料とみられる「三番叟」1面について、表層の彩色部分の剝離止めを中心とする修復作業を行った。なお、修復は金子千沙氏(研究協力者)が担当した。

### (3) 「長命茂兵衛家文書」の保管整理作業

「長命茂兵衛家文書」を含む文書群全153点について、文書1点ごとに保存用の中性紙封筒や文書箱に入れ、必要事項を記載したラベルを差し込んだ。

### (4) 「長命茂兵衛家文書」および年預に関連する文献資料の収集と参考文献目録の作成

「長命茂兵衛家文書」の調査・分析や、年預の活動実態の研究に必要な文献資料等を収集し、参考文献目録を作成した。

(5)「長命茂兵衛家文書」および年預に関する研究

上記(1)～(4)の活動成果を反映させる形で、「長命茂兵衛家文書」および年預に関する研究に取り組んだ。特に、(1)の解題作成を通して、同文書の分析や年預の活動実態の検証を行った。

以上の研究方法の内容は、主として、研究期間の平成23～25年度に、ほぼ月1回のペースで京都府立山城郷土資料館において開催した「長命茂兵衛家文書研究会」での研究活動に基づく。なお、(1)の画像データの加工処理は家原彰子氏(研究協力者)が担当し、(1)の解題作成のうち、音曲系の文書は高橋葉子氏(研究協力者)、「三番叟」1面は見市泰男氏(研究協力者)が担当した。また、(4)の参考文献の収集と参考文献目録の作成は、長田あかね(研究代表者)が中心に行い、(5)の研究のうち、「長命茂兵衛家文書」の研究史の概要について山路興造氏(研究協力者)が執筆した。

#### 4. 研究成果

##### (1)主な研究成果

研究期間を通して、上記「3.研究の方法」に基づき、以下の研究成果を得られた。

「長命茂兵衛家文書」の基礎的データ

「長命茂兵衛家文書」を含む文書群全153点について、文書名・法量(寸法)・員数(数量)・形状・成立年代・保存状況などの書誌データを採取した。

「長命茂兵衛家文書」の画像データ

「長命茂兵衛家文書」を含む文書群全153点について、デジタルカメラで撮影し加工処理を施した公開用画像データを作成した。

「長命茂兵衛家文書」の目録

「長命茂兵衛家文書」を含む文書群全153点について、番号・成立年代・文書名・形状・員数などを記載した目録を作成した。なお、目録は、「長命茂兵衛家文書目録」「長命茂兵衛家文書関係資料」「安田家文書」の3つに分類し、『長命茂兵衛文書目録 付安田家文書目録』として編集・発行した。

「長命茂兵衛家文書」釈文(翻刻)

「長命茂兵衛家文書」102点について、文書1点ごとの釈文(翻刻)を作成した。

##### 解題の作成

「長命茂兵衛家文書」102点と同文書の関係資料とみられる「三番叟」1面について、文書1点ごとの解題を作成した。なお、解題には、上記の目録に含めなかった書誌データについても、なるべく記載するよう配慮した。

「長命茂兵衛家文書」および年預に関連する文献資料と参考文献目録

「長命茂兵衛家文書」の調査・分析や、年預の活動実態の研究に必要な文献資料等を収集し、参考文献目録を作成した。参考文献については、研究書や研究論文の他、主に法政大学能楽研究所般若窟文庫所蔵の古文書や、春日大社の神官であった大宮家所蔵の古文書(独立行政法人国立文化財紀行奈良文化財研究所所蔵マイクロフィルムによる)の焼き資料を収集した。

##### (2)国内外における位置づけとインパクト

「長命茂兵衛家文書」は、近世の南都両神事能(春日若宮祭能と興福寺新能)において、「翁(式三番)」の担当という、重要な役割を果たした年預に関する、ほぼ唯一のまとまった文書資料である。「1.研究開始当初の背景」に記した通り、同文書は、1985年に山路興造氏・植木行宣氏・青盛透氏による調査が行われたが、全面公開にはいたらず、これまで、ごく一部の研究者が数点の文書を論考の参考とする程度にしか活用されてこなかった。そのため、年預の歴史の変遷や実態については、まだ不十分な点も多く、年預についての研究は、まだ発展途上の段階にあると言える。しかるに、本研究によって、初めて同文書全体の徹底した調査・分析が行われ、全面公開への道筋をつけ、同文書を活用した今後の研究発展に貢献しうる成果に至った意義は、日本芸能史・能楽史の分野を中心に、研究史上きわめて大きいと考える。

##### (3)今後の展望

今後、「3.研究の方法」(5)に記載した「長命茂兵衛家文書」および年預に関する研究について、そのさらなる充実と深化を図っていききたい。そうした研究から得られた成果のうち、平成27年度中に解題・論考・参考文献目録等を収録した冊子媒体の発行を目指したい。なお、「長命茂兵衛家文書」102点の釈文(翻刻)については、平成27年度中に、日本芸能史専門の学会誌『藝能史研究』に掲載予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔図書〕(計1件)

長命茂兵衛家文書研究会(代表:長田あかね) 自費出版、長命茂兵衛家文書目録 付安田家文書目録、2015、20

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

長田 あかね(NAGATA, Akane)

京都造形芸術大学・芸術学部・非常勤講師  
研究者番号:10574816

(2)研究分担者

なし

(3)連携協力者

なし

(4)研究協力者

家原 彰子 (IEHARA, Shoko)

同志社大学大学院博士後期課程

岡井 毅芳 (OKAI, Takayoshi)

一般財団法人宇治市文化財愛護協会・理事

金子 千沙 (KANEKO, Chisa)

能面打

小林 凱之 (KOBAYASHI, Yoshiyuki)

平成 24 年没

高橋 葉子 (TAKAHASHI, Yoko)

京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・客員研究員

見市 泰男 (MICHII, Yasuo)

能面打

山路 興造 (YAMAJI, Kozo)

民俗芸能学会・代表理事

渡邊 美秀子 (WATANABE, Mihoko)

京都府立山城郷土資料館友の会・理事